

平成 22 年 度

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
博士課程（後期課程）

学 生 募 集 要 項

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 指導可能領域

〔日本語文化学講座〕

日欧比較文化論、異文化コミュニケーション、比較文学・比較文化、文化史、医学史、近現代日本文学、詩、アニメーション、その他文化関連領域

〔比較日本文化学講座〕

比較文学・比較文化、文化史、女子教育史、比較演劇論、比較児童文学及び文化、在日朝鮮人文学、平安文学、比較婚姻・家族史

〔日本語教育学講座〕

日本語教授法、言語教授法一般、第2言語としての日本語習得研究、中間言語語用論、談話分析・会話分析、現代日本語の意味・文法研究、日本語の誤用分析、日本語と他言語の対照研究、日本語の文法教育

〔応用言語学講座〕

日本語と他言語の対照研究、現代日本語の統語論、意味論、文法化理論、心理言語学、社会言語学、日本語の話し言葉についての研究

〔現代日本語学講座〕

音声学、日本語音声教育、意味論（意味論一般、形式意味論、認知意味論を含む）、認知言語学、文法論、日韓対照研究

〔日本語教育方法論講座〕

日本語教育方法論、日本語教育教材論、日本語教育評価論、第二言語運用論、外国人児童の言語習得研究、接触会話の研究、地域日本語教育の研究、コンピュータ支援教育方法論、日本語CALL教材開発

国際言語文化研究科は、「国際言語文化学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、国際言語文化学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」（「名古屋大学大学院国際言語文化研究科規程」第2条）を目的とします。本研究科はこの目的にそって、国際言語文化に関する「基礎理解力」とともに「応用力」と「実践力」などの能力を備えた人材を広く国内外から受入れます。

平成22年度本学大学院国際言語文化研究科〔博士課程（後期課程）〕に入学又は進学を希望する学生を下記の要項により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 本学大学院若しくは日本の他の大学院で修士の学位又は専門職学位を授与された者、又は平成22年3月31日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成22年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成22年3月31日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成22年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
- (6) 本学大学院において、個別審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成22年3月31日までに24歳に達するもの

（注）出願資格(5)又は(6)の適用を受けようとする者については、出願に先立って、個別の入学資格審査を行うので、あらかじめ本研究科事務室に照会の上、平成21年12月11日（金）までに所定の申請書類を提出すること。

2. 募 集 人 員

日本語文化専攻 …………… 10名（うち社会人特別選抜若干名）
国際多元文化専攻（メディアプロフェッショナルコース含む）…………… 14名（うち社会人特別選抜若干名）

3. 願 書 受 付 期 間

平成22年1月8日（金）から平成22年1月14日（木）まで（土曜日、日曜日及び祝日は除く）。

受付時間は、午前9時から午後4時まで（12時から13時は除く）。

郵送する場合は、封筒の表に「大学院博士後期課程入学願書在中」と朱書きし、書留郵便で郵送すること。1月14日（木）午後4時までに到着したものに限り受け付ける。

また、願書受付期間に提出された4. 出願書類等に不備がある場合、受理しない。

4. 出願書類等

入学又は進学志願者は、次の書類等を取りそろえて、下記(9)に提出すること。ただし、本研究科博士課程(前期課程)の修了者及び平成22年3月修了見込みの者は※印の書類のみの提出で可。

なお、書類提出後における記載事項の加筆・訂正等は一切認めない。

※(1) 入(進)学志願票

本研究科所定の用紙に記入すること。

(2) 修士の学位若しくは専門職学位を授与された者又は授与される見込みの者であることの証明書
(原本を提出のこと。コピー不可)

(3) 成績証明書

出身大学長、研究科長等が作成し厳封したもの。(原本を提出のこと。コピー不可)

(4) 修士の学位試験に提出した論文2部(写で可、要旨も添付すること)

(修士学位論文を提出しないで課程修了した者はそれに代わる研究論文等)

修士論文以外に研究業績があれば、それも併せて2部(写も可)提出すること。

なお、提出された論文及び研究業績に係る資料は返却しない。

※(5) 博士論文作成計画書

A4判の用紙に、6,000字程度で日本語で記述すること。

(6) 所属長の承諾書(社会人特別選抜による志願者のみ提出)

本研究科所定の用紙に、在職のまま就学することを承諾する旨を記載した当該所属長の承諾書

(7) 外国語検定試験合格証(国際多元文化専攻の志願者で外国語検定試験に合格した者のみ提出)

※(8) 入学検定料 30,000円

郵送の場合は、郵便局において30,000円の郵便普通為替を作成し、記入欄には何も記入しないで提出すること。

ただし、本学大学院研究科博士課程前期課程を修了し、引き続き博士課程後期課程へ進学する者及び国費外国人留学生は入学検定料を必要としない。なお、他大学院から受験する国費外国人留学生は、国費外国人留学生であることの証明書を提出すること。

※(9) 領収証書・領収証書(控)(本研究科交付の所定用紙により、氏名のみ記入のこと)

※(10) 返信用封筒 2通(受験票送付用、連絡用)

本研究科所定の封筒に出願者本人の受信場所、郵便番号、氏名を明記すること。受験票送付用封筒には350円分の切手を貼付し、連絡用封筒は切手を貼付せずに提出すること。

※(11) 宛名シール

(2) 登録原票記載事項証明書(ただし、提出できない場合は、本研究科に問い合わせること。なお、日本国籍を有する者及び日本国永住許可を得ている者は不要)

(3) 出願書類等の提出及び問い合わせ先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町B4-5(700) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科入試担当
TEL (052) 789-4881 (直通)

5. 選抜方法等

選抜は、一般選抜と社会人特別選抜に分けて行う。

メディアプロフェッショナルコースの選抜は、国際多元文化専攻の他講座と同様に一般選抜と社会人特別選抜に分けて実施する。

一般選抜は、一般学生、帰国子女、外国人留学生、社会人等を対象に実施する。

社会人特別選抜は、企業及び教育機関等で2年以上正規の職員として継続して勤務している者で、

在職のまま入学しようとする者を対象に実施する。

① 選抜試験

日本語文化専攻（一般選抜・社会人特別選抜）

修士学位論文（又はこれに代わるもの）、博士学位論文作成計画書及び口述試験により、総合的に判断して選考する。

月 日	内 容	試 験 時 間
2月18日(休)	口述試験（日本語による）	別途文書で指定する。

国際多元文化専攻

外国語の試験（一般選抜のみ）、修士学位論文（又はこれに代わるもの）、博士学位論文作成計画書及び口述試験により総合的に判断して選考する。

月 日	内 容	試 験 時 間
2月18日(休)	外国語試験	9:30~11:00
	口述試験	13:00~

外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。ただし、外国人留学生の場合は日本語とする。

注1) 日本国永住許可を得ている外国人は、一般学生と同様の扱いとする。

② 試験場所

名古屋大学文系総合館（予定。変更があれば別途通知する。）

6. 合格発表

平成22年2月19日（金）17:00頃に、文系総合館玄関に掲示発表をする。

また、本研究科ホームページ（<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>）においても、一定期間発表する。

なお、郵送により本人にも通知する。

7. 入学手続

手続日は、合格者に対し文書により通知する。

8. 入学料及び授業料

入 学 料	282,000 円
授 業 料	前期分 267,900 円 (年額 535,800 円)

(注1) 授業料の納入については、希望により前期分納入の際に後期分も併せて納入することができる。

(注2) 入学時及び在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納入金額が適用される。

9. そ の 他

- (1) 納入した入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。また、領収証書は志願票受理時には発行せず受験票送付時に同封する。
- (2) 試験場へは、試験開始30分前に到着し係員の指示を受けること。
- (3) 外国語試験の試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り、受験を認める。
- (4) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているので、受験の際は、公的交通機関を利用すること。
- (5) 過去5年分の志願者数、受験者数及び合格者数は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>) に記載されている。
- (6) 過去の入試問題は、文系総合館1F文系教務課(国際言語文化研究科窓口)で閲覧可能(コピー不可)
- (7) 個人情報の取扱いについて
出願にあたって提供された氏名、住所その他個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続き及び入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うために利用する。
取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や新型インフルエンザのまん延等により、募集要項の内容のうち、試験日程や選抜内容に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意願います。

◇ 名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ

URL <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>

◇ 連絡窓口

文系教務課 国際言語グループ 入試担当

TEL 052-789-4881

国際言語文化研究科の概要

国際言語文化研究科は、今日の国際化社会が抱える諸問題に対処するために、日本及び世界の諸地域の言語文化を国際的視野から捉え直し、言語と文化の研究に新領域を開拓するとともに、実践的語学力の育成を重視した教育を行うことにより、来るべき新時代のリーダーたり得る国際人としての高度な専門家の養成をその設置目的とするものである。

日本語文化専攻は日本文化、日本語教育、日本語学の研鑽を基礎とし、実践的語学力を身につけ、国際的な広い視野、深い洞察力を備えた日本文化学の専門家、指導的な日本語教育者及び日本語学の研究者の養成を目指すものである。

国際多元文化専攻は、既存のアカデミズムを横断する言語文化の諸問題と世界の諸地域に新たに生成しつつある文化に関する研鑽を礎石とし、実践的語学力を身につけ、国際理解と国際協調に貢献しうる高度専門職業人、研究者の養成を目指すものである。

本研究科は、留学生及び在外教育施設で教育を受けて帰国した学生を積極的に受け入れるとともに、昼夜開講制により、企業及び中等教育機関から派遣された者に対するリカレント教育も行う。

なお、博士学位論文の審査に合格した者には、博士（文学又は学術）の学位が授与される。

講座及びその内容

1. 日本言語文化専攻

講座名	内 容
日本言語文化学	日本言語文化に関わる諸事象を異文化接触の観点から共時的・通時的に分析し、その個別性と普遍性を究明していく方法論を確立するとともに、学際的分野として、現代の国際社会に現実的な意味を持つ日本言語文化学の構築を目指す。
比較日本文化学	日本文化を世界文化的視点から捉え、文化対象論、記号論などの成果を踏まえて、異文化と日本文化との比較対照を行い、文化現象一般についての普遍的理論の構築を目指すとともに、外国人に対する日本語教育に文化的基盤を与える。
日本語教育学	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追求する。また、さまざまな日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育のあり方を追求していく。
応用言語学	日本語研究に関する実践的な理論や方法論のあり方を、対照言語学、社会言語学、心理言語学、言語習得論、統計学等の成果を踏まえて追求する。また、言語分析と言語教育・言語学習との有機的な関連付けを重視し、日本語教育の実践に確固とした理論的基盤を与える。
現代日本語学	講義及び演習を通して、現代日本語の音声学・文法論・意味論（認知意味論・形式意味論）・語用論等、日本語学の主要分野の必須項目・研究方法を体系的に習得し、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。
日本語教育方法論	日本語教育の基礎となる実際の日本語使用場面における談話分析や言語習得研究に基づき、多様な背景をもつ日本語学習者のニーズに応じたコースデザイン、教育方法・評価のあり方を探求する。教育メディアを活用するための基礎知識を学ぶとともにコンピュータ技術を駆使した日本語教育の方法を教材開発及び演習を通じて追求する。

2. 国際多元文化専攻

講座名	内 容
多元文化論	世界の諸地域における多文化社会を、言語文化の視点から、階級・民族・人種・性差などを踏まえつつ多角的に捉え、異文化の共生を理解するための理論的基盤を構築する。
先端文化論	世界の諸地域に新たに生じつつある先端的文化の諸相を言語文化的視点から捉え、新しい社会に対応できる新たな世界認識を確立するとともに、時代と文化形成との連関に関する理論的基盤を構築する。
南北アメリカ言語文化	南北アメリカ大陸における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、民族・人種・宗教・環境等の諸問題に対する文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
東アジア言語文化	東アジア諸地域における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、中国、韓国、朝鮮、ロシアの言語文化の基層構造を検証し、それに関わる諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
ヨーロッパ言語文化	ヨーロッパにおける諸々の社会と文化について、その地域性・歴史性・グローバル化の影響などに注意を払いながら分析するとともに、理論構築を目指す。
ジェンダー論	フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関する研究を基盤として、文学、文化、社会、経済における事象と表象を批評的・学際的に検証する。それを通じて、社会の既成概念にとらわれない人材育成と研究成果の社会的還元を目指す。

3. 国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース

コース名	内 容
メディアプロフェッショナルコース	高度情報化社会の先端で、メディアはいま何に挑み、どう課題を克服しつつあるか。新聞、テレビをはじめ、インターネット、情報技術、広告、広報活動などの現場で奮闘中の多彩な企業人も教授陣に加え、即戦力となる人材を養成するとともに、批判的かつ創造的なメディア・文化研究を目指す。

志願票記入上の注意

【全ての志願者】

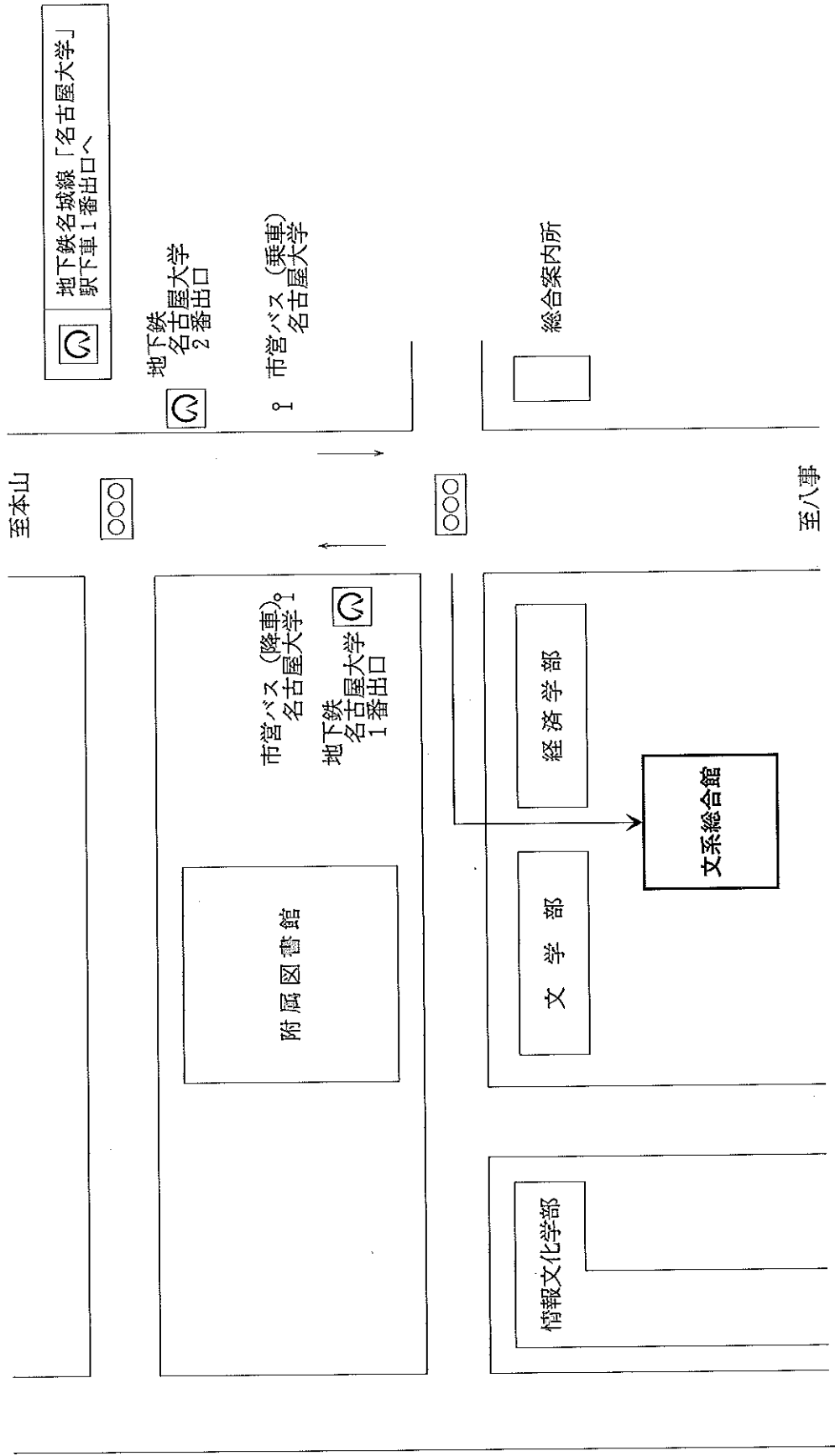
志願票下部の注意をよく読んで記入すること。特に履歴の欄は、高校卒業以後の入学・卒業修了年月、就職・離職年月を1行ずつ記入し、できるだけ空白期間のないようにすること。

【国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース志願者】

- (1) 一般選抜、社会人特別選抜の欄は、該当する出願資格により○印で囲むこと。
- (2) 国際多元文化専攻欄の「志願専攻及び志願講座名」欄に「メディアプロフェッショナルコース」と記入する。



試験場配置図



平成 21 年 11 月

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-5(700)

電話 (052) 789-4881 (直通)

<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>